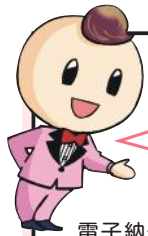


## 「暮らしのデジタル化」 3つの豆知識

## 社会貢献につながる電子

## 納付





**支払方法をデジタル化する、その一歩が暮らしを快適に、社会にも貢献します!**



電子納付が社会貢献にもつながることをご存知ですか?面倒だった「税金・公共料金」の支払いを電子納付に変えるだけで、暮らしの利便性が向上し、社会も良い方向に変わります。

**●電子納付で実現!「暮らし」と「社会」のメリット**

今までの紙による窓口での支払いから、電子納付に切り替えることで、私たちの「暮らし」と「社会」にどんなメリットが生まれるのか見てみましょう。

**私たちのメリット(支払う人)**

**✔ メリット① 時間の有効活用/ストレス軽減**

窓口で並ばずに済むため、時間を有効に使えるようになります。焦って支払いをしたり、長時間待つストレスもなくなります。



**✔ メリット② いつでもどこでも**

Pay-easy(ペイジー)(インターネットバンキング)など、パソコンやスマホで24時間いつでもどこでも支払いができます。



**✔ メリット③ 支払い漏れを防ぐ**

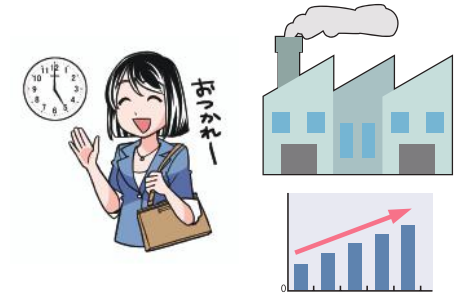
口座振替など、より確実な方法を選ぶことで支払い漏れや延滞リスクが軽減します。



**社会全体のメリット**

**✔ メリット① 生産性向上/人手不足の改善/働き方改革**

紙による支払いから電子納付に切り替えることで、金融機関や自治体の窓口業務が軽減され、支払う側、支払いを受ける側双方の手間が省けます。その結果、生産性向上や少子高齢化による人手不足の改善等、社会全体の業務効率化につながり、より良い労働環境で生き生きと働ける働き方改革に貢献することになります。



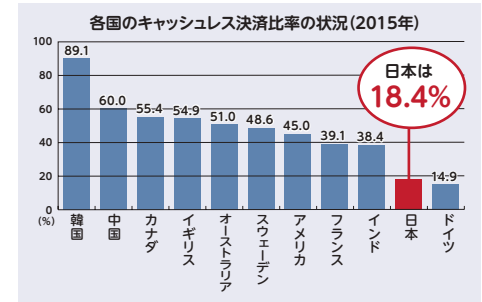
**✔ メリット② 自然保護**

大幅な紙の削減になるため、エコロジカルな社会の実現、経済性にも貢献します。



**●経済産業省が掲げる「キャッシュレス・ビジョン」**

暮らしのデジタル化の推進とともに、近年、利用率が増えている「キャッシュレス決済」。経済産業省は「キャッシュレス・ビジョン」において、現在は20%程度のクレジットカード、デビットカード、電子マネーなどによるキャッシュレス決済比率を、2025年までに40%程度に引き上げることを目指すという「支払い方改革宣言」を発表しました。

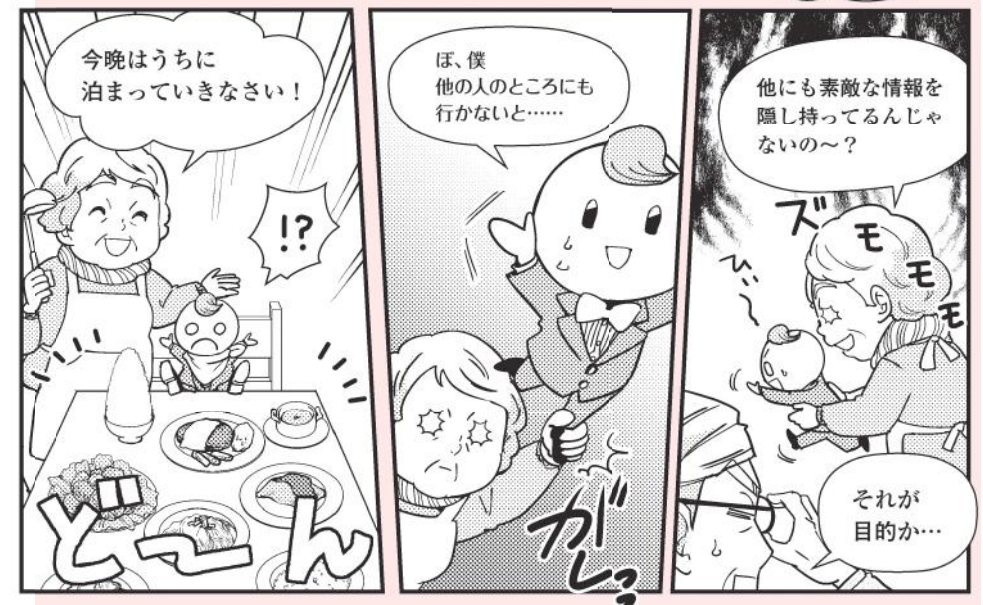
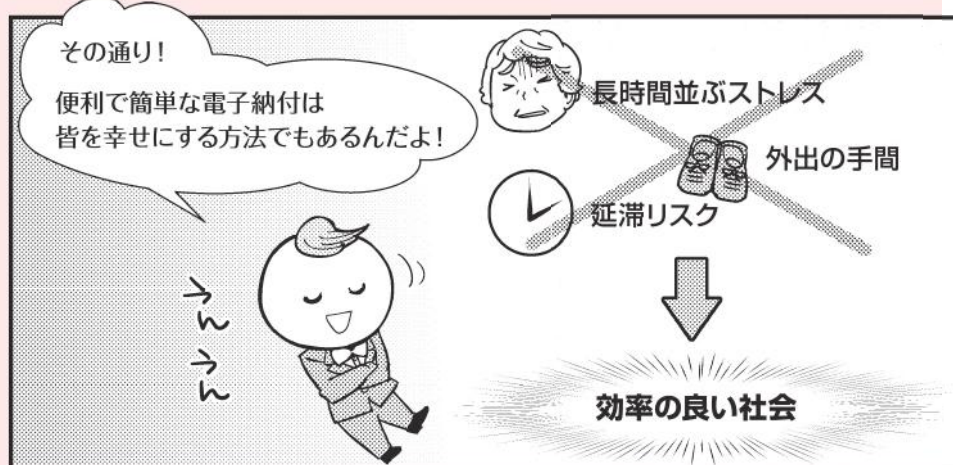


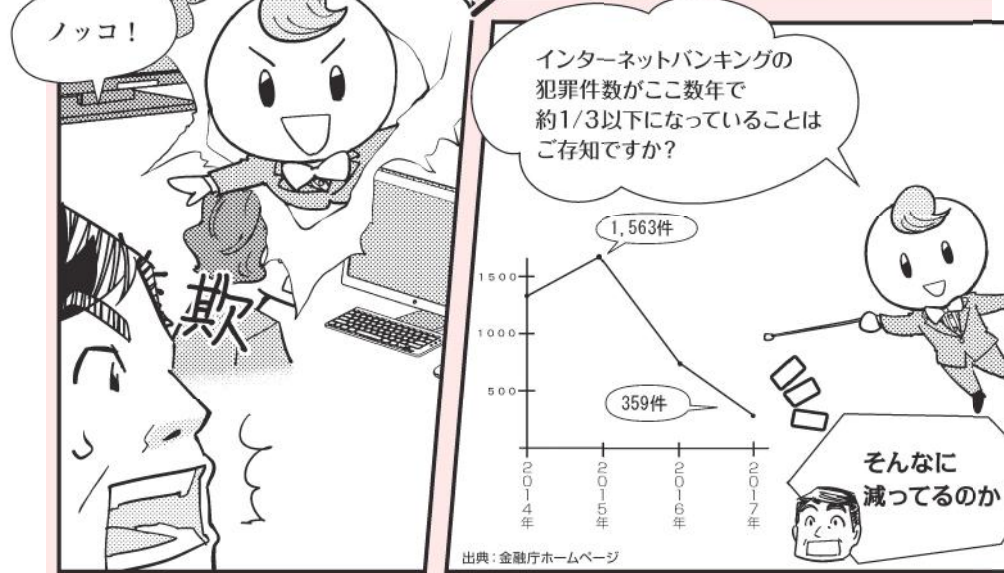
出典:経済産業省「キャッシュレス・ビジョン」(2018年4月)より

税金・公共料金を支払う人に対してかかっている年間コスト(支払場所までの移動、書類記入、待ち時間等を費用換算)や、紙の納付書による収納にかかる費用の合計は、推定で2,000億円以上といわれています。

出典:一般社団法人全国銀行協会調べ(調査委託会社:野村総合研究所)2018年9月現在









**主なリスクを知り、適切なセキュリティ対策を行えば安心!**



「インターネットなどでの支払いはちょっと心配…」そんな方もいらっしゃるかもしれません。しかし、近年では金融機関や管理者のセキュリティ対策が進み、国も対策に力を入れており、犯罪被害も大幅に減っています。

**●減少する金融犯罪**

電子納付で気になる「インターネットバンキングによる預金等の不正払い戻し」については大幅な減少傾向にあります。

■犯罪件数推移

(単位:件)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
偽造キャッシュカード	304	383	303	340
盗難キャッシュカード	3,080	2,919	3,887	9,968
盗難通帳	101	88	57	52
インターネットバンキング	1,410	1,563	763	359

出典:金融庁ホームページ「偽造キャッシュカード等による被害発生等の状況について」(2018年6月15日・2018年9月21日発表)

例えばインターネットバンキングの犯罪件数はここ数年で約1/3以下に! 年々減少しています。



■補償率

(単位:%)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
偽造キャッシュカード	96.3	98.6	98.3	98.3
盗難キャッシュカード	38.5	45.8	47.0	57.1
盗難通帳	62.9	36.0	66.7	55.0
インターネットバンキング	84.0	84.6	84.5	78.8

出典:金融庁ホームページ「偽造キャッシュカード等による被害発生等の状況について」(2018年6月15日・2018年9月21日発表)

※補償率は金融機関が処理方針を決定した被害数のうち、被害金額の全額または一部を補償した件数の割合です。

万一、被害に遭ってしまった場合には、お客さまの責任割合に応じて、銀行から補償を受けられます。



**●金融犯罪事例とセキュリティ対策**

インターネットを利用した主な金融犯罪の事例とセキュリティ対策の方法をご紹介します。

**事例1 ウィルス感染**

利用者がウィルスに感染しているパソコンから金融機関やサービス提供者のホームページにログインすると、偽のポップアップ画面や「ダウンロード中」などの偽画面を表示し、IDやパスワードなどの重要情報を不正に取得したり、不正に預金を引き出したりします。



**対策 ウィルスソフトの完備／アップデート**

- ✓ ウィルス対策ソフトを使用し、常にアップデートして最新の状態を保つ。
- ✓ 信頼の置けないウェブサイトからプログラムをダウンロードしない。

**事例2 フィッシングメール(偽Eメール)**

偽のメールを送るなどして巧みに偽のホームページ(ネットバンキングの模倣画面)へと誘導し、乱数表やパスワードなどの情報を入力させて盗み取り、預金を不正に引き出します。

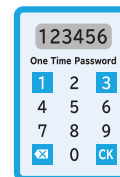


**対策 開封しない／ワンタイムパスワードの活用**

- ✓ 不審なサイトへのアクセスや不審なメールの開封は行わない。
- ✓ 預金の振込・送金やお客さま情報の変更以外ではパスワードを入力しない。

**●「ワンタイムパスワード」とは**

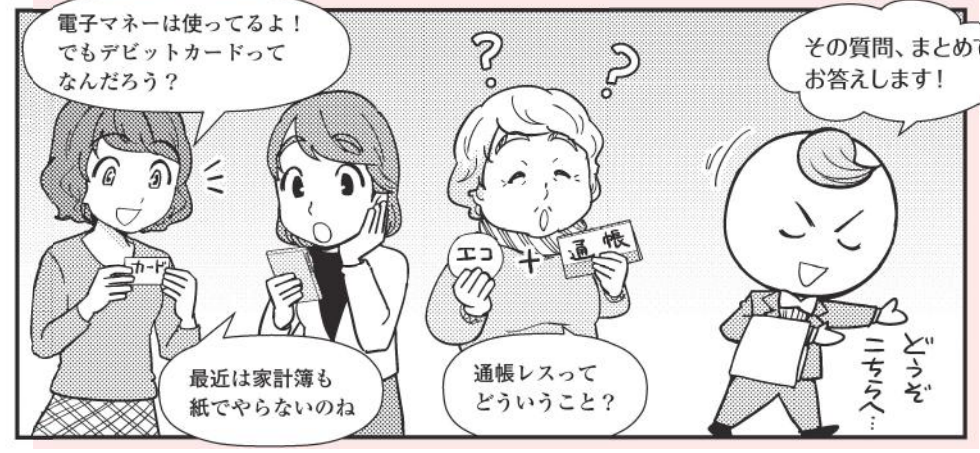
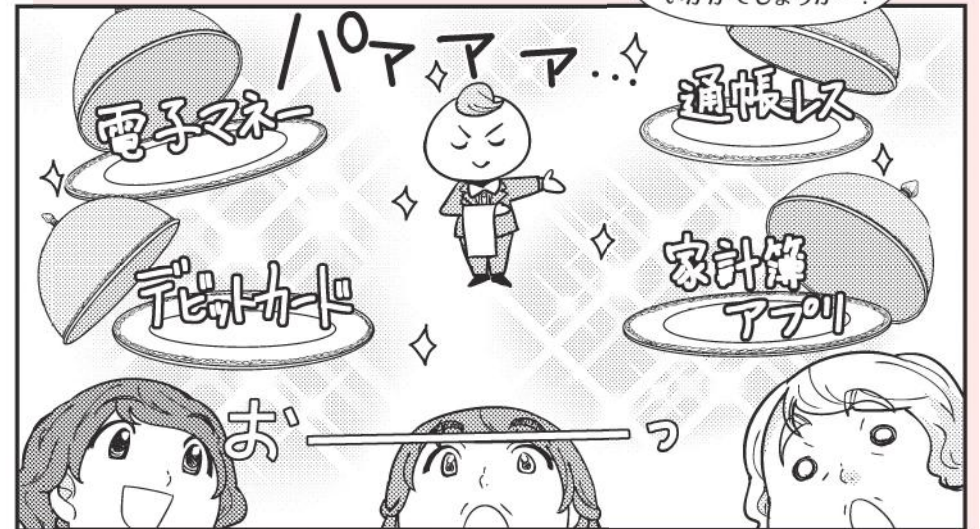
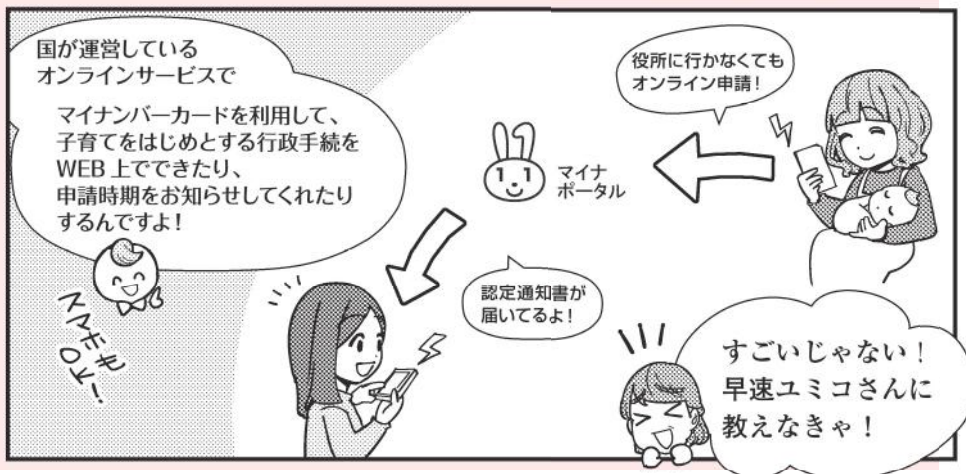
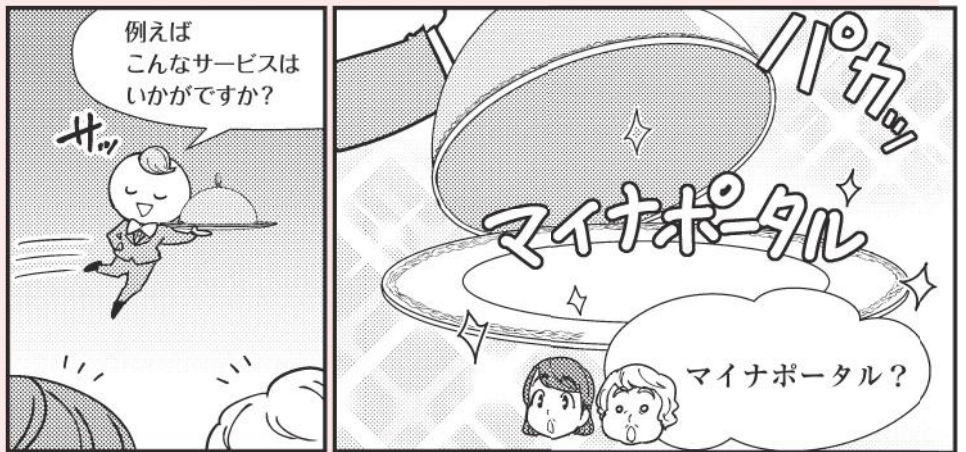
一度限り有効な「使い捨て」パスワードのこと。一度限りのパスワードなので犯人に盗み取られても預金を不正に送金されるリスクは低くなります。万一、パスワードを盗まれるようなことがあっても再利用による不正な取引をされることがないため、非常に信頼度の高いセキュリティ対策です。



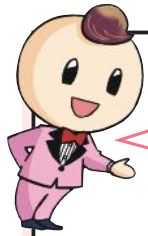
金融犯罪の手口と対策を理解して、安全に使うことが大切だね!











暮らしをもっと便利に快適にする  
サービスをどんどん活用しよう!



税金・公共料金以外にも、「暮らしのデジタル化」は広がっています。普段の生活や暮らしが便利になるデジタルサービスを積極的に取り入れてみませんか？

●マイナポータル

国が運営する個人向けオンラインサービスです。自宅にあるパソコンなどで、子育てをはじめとする行政手続きがワンストップでできたり、行政機関からのお知らせを確認できたりします。



マイナポータルサイトはこちら

<https://app.oss.myna.go.jp/Application/search>



●電子マネー

現金を使わずに支払いができる、とっても便利な「お金」です。電子マネーにチャージ(入金)することで、お店などで、その場で、すぐに、代金を払うことができるようになります。



●デビットカード

ショッピングや飲食時の支払いで現金の代わりに使えるカードのことです。商品を購入した際に代金が銀行口座から即座に引落とされるのが特徴。主に銀行が発行し、使い過ぎの防止や現金を持ち歩かなくて良いなどのメリットがあります。



●家計簿アプリ

支出の手入力やレシートの整理など、家計簿をつける手間を大幅に省き、銀行口座やクレジットカードなどの口座残高や利用明細情報が管理できるアプリも。スマートフォンやタブレットから簡単に操作でき、お金の流れをまとめるのに非常に便利です。



●通帳レス

紙の通帳の代わりにインターネットバンキングで、入出金明細を無料で確認できるサービスです。通帳記入の必要がなく、紛失する可能性がなくなります。  
※実施していない金融機関もあります。



●インターネットバンキング

インターネットを通じて、金融機関の残高照会・入出金明細照会・振込・定期預金などのお取り引きがパソコン、スマートフォン、携帯電話で24時間365日いつでも使えるサービス\*のこと。各種手数料もおトクになる場合が多く、利用が急速に拡大しています。  
※ご利用時間は金融機関により異なります。



●モバイル決済

スマートフォン(スマホ)などの携帯端末により、商品代金や交通運賃などの支払いができる電子決済サービスのこと。一部の電子決済サービスにおいて税金の支払いも可能です。コンビニや飲食店などモバイル決済ができる加盟店は年々増えており、「スマホをかざすだけ」「スマホ画面を見せるだけ」といった支払いが今後拡大していくことでしょう。



